

第 13 回全国障害者生活支援研究セミナー

意思決定と支援Ⅱ

～障害者総合福祉法の時代に～

- | | |
|----------|--------|
| ● 開催要項 | P 1- 8 |
| ● 参加申込用紙 | P 9 |

日 時 : 2012年2月4日(土)～2月5日(日)

会 場 : 新宿NSビル NSスカイカンファレンス(30F)
 NS会議室(3F)

(東京都新宿区西新宿2-4-1)

主催 : 特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会(サポート研)

ホームページ : <http://support.ryoiku-c.com/>

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

第13回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項

意思決定と支援Ⅱ ～障害者総合福祉法の時代に～

●開催要項

2011年3月11日、午後2時46分。皆さんはどのような日中を過ごされていたでしょう。そしてあれから半年以上を経た今、どんなことをお考えでしょう。

「あの日」からこの国は変わったといわれます。さまざまな安全神話の崩壊、社会的連帯の必要性の再確認…。しかし社会の全体状況と深く関わりながらも、一人ひとりの日々の生活は淡々と続いています。私たちの生活は社会状況や政治・経済の動きによって左右されるということ、皆さんも震災以降改めて考えたのではないのでしょうか。中でも障害のある方の生活は、政治経済状況も含めた社会的な状況に大きく揺るがされつつ進んでいくものだと言わざるを得ません。そして今、大震災前から当事者中心に検討を進めてきた、障害者自立支援法に代わる新たな「障害者総合福祉法」の時代がすぐ目の前に控えています。新たな法制度によって、障害のある方の生活がより安定し充実するよう、引き続き議論の行方を注視していかなければなりません。

このような状況の中で、私たち全国障害者生活支援研究会（通称「サポート研」）の研究セミナーの今年のテーマは昨年に引き続き「意思決定と支援」としました。このことはサポート研が、社会的に多くのサポートを必要とする障害のある方たちへの支援のあり方を一貫して追究してきた中で、当事者の意思決定に関する課題の解決が、まさに支援の本質を問う核心的な議論であると考えているからにほかなりません。

私たちの考える意思決定支援は、当事者と支援者との間の双方向の意思交換のプロセスを通じて行われる、ご本人を中心に据えた支援のあり方です。障害のある方たちの、日々の暮らしの中の「選択」においては、その選択肢の立て方一つで（つまり支援者からの情報提供のあり様で）一人ひとりの意思決定は大きく左右されてしまいます。そればかりか、ご本人の、表面的には弱いけれど精一杯の自己表現を支援者がキャッチできないがために、支援する側がご本人の「決定」を無視している場面もあるように思います。

私たちは新たな総合福祉法の時代に、当事者の意思決定を支援するための社会的な仕組みの必要性を議論し始めています。そしてその仕組みづくりには、日々悩みながら行われているであろう当事者と支援者の間での支援実践の積み重ね及びその実践の理論化と社会的共有が求められていると考えています。今回の研究セミナーでは、障害者総合福祉法の骨格を具体的にイメージし、本人を中心とした意思決定のあり方を議論の中に織り込みながら、講演とシンポジウム、さらに2日目の分科会を開催いたします。全国から集った仲間達と意思決定支援の実践を大いに語り合い、新たな時代の幕開けにふさわしい充実したセミナーになることを期待いたします。

○主催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

○後援（予定）

財団法人日本知的障害者福祉協会／日本障害者協議会／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会／特定非営利活動法人DPI日本会議／全国社会就労センター協議会／社団法人全国肢体不自由児・者父母の会連合会／特定非営利活動法人全国精神保健福祉会連合会／財団法人日本障害者リハビリテーション協会／社団法人日本自閉症協会／きょうされん／日本障害フォーラム（JDF）／特定非営利活動法人東京都発達障害支援協会

○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方
（手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください）

○募集定員

300名（2日目の分科会につきましては、各室の最大収容人数に達した段階で締め切らせていただきます）

○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000 円 情報会員 11,000 円 その他 12,000 円(学生 6,000 円) 懇親会費別途 6,000 円
 【1日のみ参加】正会員 6,000 円 情報会員 6,500 円 その他 7,000 円(学生 3,500 円) 懇親会費別途 6,000 円

○申込締切

2012 年 1 月 6 日（金）。各委員会が定員になり次第締め切ります。総定員 300 名。

○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送または F A X にてご送付下さい。

申し込み	京王観光 調布支店（担当：大野） E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
問合せ先	〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321

○日 程・会 場・内 容**◎ 1 日 目 2012 年 2 月 4 日（土）**

9:30～10:00	10:00～10:15	10:15～12:00	12:00～12:30	13:30～17:00	18:00～20:00
受 付	挨拶	基調講演	震災報告	シンポジウム	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）					ルーム3

●全体会（10:00～17:00）

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）

東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

（29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越してください。他のエレベーターは不可。）

◆開会挨拶（10:00～10:15）

赤塚 光子（当会会長）

◆基調講演（10:15～12:00）

「障害者総合福祉法の骨格提言と、これからの課題」

竹端 寛（山梨学院大学）

◆東日本大震災報告（12:00～12:30）

森下 浩明（みなと舎・神奈川）

◆講演「イギリス意思決定能力法から学ぶこと」（13:30～15:00）

菅 富美枝（法政大学）

◆シンポジウム「意思決定と支援～現場からの課題提起」（15:15～17:00）

藤内 昌信（だれもがともに小平ネットワーク・東京）

中西 昌哉（ベテスダの家・京都）

助言者：菅 富美枝（前掲）

課題整理：柴田 洋弥（サポート研顧問・東京）

コーディネーター：小林 博（湘南あおぞら・神奈川）

●懇親会（18:00～20:00）

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム3（30F）

◎2日目 2012年2月5日(日)

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受付	分科会	分科会
新宿NSビル NS会議室 305会議室~312会議室		

●分科会(9:30~15:30)

◇会場 新宿NSビル NS会議室 305会議室~312会議室(3F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

(2日目の会場へは、エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。)

分科会1: 311会議室 分科会2: 312会議室 分科会3: 308会議室
 分科会4: 305会議室 分科会5: 307会議室 事務局: 301会議室

※分科会は、後掲「各分科会のテーマ及び要旨」をご覧のうえ、いずれか一つをお選び下さい。
 ※会場は変更になることがございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848 神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608 TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp 担当 村尾・加藤

○会場アクセス

新宿NSビル

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線 新宿駅 「南口・西口」より徒歩7~8分
 都営地下鉄線(新宿線)・京王新線 新宿駅 「新都心口」より徒歩約6~7分
 都営地下鉄線(大江戸線) 都庁前駅 A3出口 より徒歩約3~5分

○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンダーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

分科会 1 本人の思いを聴く

◆「本人の声を聴く」ことの実際 ～深く思いを聴くとは、その大切さとむずかしさ～

障害者自立支援法に代わる障害者総合福祉法など、障害のある方を取り巻く環境が大きく変化しています。しかし、制度がどう変わろうとも、障害のある方を身近で支援する私たちにとっては、ご本人の思いに寄り添った実践をどう行っていくかが重要です。当分科会では、障害の重さに関係なく、その思いをどう汲み取り、どう活かすのかを考えていくために、年間を通じてご本人への聴き取りを重ねるとともに、関連書籍の読書会を行い、研究セミナーのテーマにもしてきました。

今回のセミナーでも、「本人の思いを聴く」ということをテーマに分科会を開催します。当事者の方も参加し、これまでの生活の中で感じた暮らしへの希望や受けた支援をお話しいたします。人の思いは複雑で、言葉での表現がある、なしに関わらず、簡単に理解できるものではありません。発語がなく聴き取りができない人、同じ話を繰り返してそれが真意とは思えない人、場面で話が変わってしまう人等の思いをどう汲み取って支援に活かしていくのか、また、支援者同士で聴く姿勢や考え方をどう共有していくのか。相手の思いを聴きとることについて、支援者として大切にしていること、難しいと感じていることを、参加者それぞれが持ち寄り、具体的な場面を紹介しながら、共に語り合いましょう。

10:00 趣旨説明

10:10 当事者2人の話（本人+支援者）を聞く

11:15 グループディスカッション（小グループ討議）

12:00 休憩

13:00 グループディスカッション

15:30 終了

分科会 2 生き難さへの支援

◆『生き難さ』とどう向き合うか

分科会2は「生き難さへの支援」をテーマに研究活動を行っています。

生き難さと一口に言ってもその内容は多種多様ですが、生き難さの根っこには、生きていく上で無くてはならないモノ（健康、お金、家、家族…）が失われているということがあるのでは、と私たちは考えています。しかも、その無くてはならないモノ、別の言い方をすれば普通なら「当たり前のモノ」が、自分の意思とは関係なく奪われていくこと、また、そうした状況に対して、なす術も無く、あるいは必死で抵抗してもそれをとどめることが困難な人たちの存在を、たとえばホームレス支援の現場や、罪を犯した障害者の生活実態を通じて、私たちは学んできました。

障害者の支援に携わる私たちは、障害の専門家である以前に、社会の中のさまざまな人々の生活や暮らしのあり様に目を向け、障害があろうと無かろうと、人が地域で当たり前前に生活するということはどういうことかを、繰り返し問い続けなければならないと思います。その問いかけに絶えず立ち戻る中に、「障害のある方の地域での生活を支援すること」の原点があるのではないのでしょうか。

こうした問題意識から、今回のセミナーでは、罪を犯し刑を終えた方たちの社会復帰を支援するために設置された、東京都地域生活定着支援センターの所長でサポート研の会員でもある赤平守氏に講演をお願いし、参加される皆さんに人の生き難さについてじっくりと考えていただけるようなプログラムを準備しました。午後は、昨年好評だった参加者全員での討議の時間もたっぷりとることにします。

普段の支援現場の慌しさから少し離れ、ご自分の中にある障害者観や福祉観を見つめなおす機会としていただけれ

ばと思っています。みなさんからの積極的なご参加をお待ちしています。

- 9:30 趣旨説明
- 9:45 講演「『生き難さ』とどう向き合うか」 ～地域生活定着支援センターの実践を通して～
講師：赤平 守（東京都地域生活定着支援センター所長）
- 11:45 当事者へのインタビュービデオ上映
- 12:15 休憩
- 13:15 参加者による全体討議
- 15:30 終了

分科会3 エピソード記述

◆ 支援の原点を求めて～思いを共有し、相互に映し合う支援～

サポート研研究セミナーの二日目にエピソード記述についての研究会を行います。その趣旨を考えてみます。

支援は予め決まっているメニューを選ぶのではなく、本人の具体的な「思い」を起点として本人の選択に沿い、立ち上げ、組み立てていくものであると思います。本人の「思い」、「主体」、「主観」に行き当たらなければ支援は始まらないのです。しかし本人の「思い」が支援者に感じられないにもかかわらず支援計画がつけられ、日課がつけられ、発達促進のための指導的プログラムのなかで置かれている人(利用者)が多くいるのではないのでしょうか。支援者が本人の「思い」を受けとめ、共有し、肯定的に映し返すことで共有する「思い」を相互により確かに感じられるものにしていく支援が十分ではないのです。それで本人の本当の意味での人間としての発達につながるのでしょうか。

そこで支援の根拠となる本人の「思い」をどう受けとめるのかという問題に至ります。

知的障害者に限らず、ことばで自分の「思い」を表現することが苦手な人のための支援は支援者がその人のその場の「思い」を感じ、それを頼りに支援を行います。その時、本人はどの様に感じているのか、どう応えれば良いのかを支援者は感じます。ある人が急に立ち上がります。良く見えているその支援者はいち早くその行動の意味が分かります。ドアが微かに開いていてその人はそれが気になり閉めようとしているのです。そこでその支援者はすぐにドアを閉めました。するとその人は安心したように自分の席に戻りました。別の例で、ある人が不安定で宥めても収まりにくい状態にありました。イライラが高まり頭に自傷をしようとしています。支援者は必死に手を持って自傷を防ぎましたがその人の気持ちは収まりません。支援者の手がたまたま本人の顔に近づいた時に本人は目を瞬かせました。支援者はそれでその人がこうした状況の中で叩かれてきたことを知りました。その自傷のように。支援者は自分の対応が本人の過去の傷に触れ嫌な気持ちを高めていることに気づき、謝るとその人はひとすじの涙を流し、その後気持ちが収まりました。また、ボウリング場に近づくとき座り込む人がいました。テコでも動きません。その行動にも過去の傷を感じます。これまで支援者から食事を強いられてきた拒食様の状態を示す人は緊張感の裂け目によく食事を摂ることが出来ます。多くの時間を要しましたが、食事を摂ることを迫らず寄り添うことでその人は次第に自力で食事が出来る様になってきました。仕事をするようになったと言われる人の中にも過敏さを残し、表情は暗く、うつろで目も合わず、多くのこだわりを持ち続け人の言うなりになっただけではないかと思う人がいます。他者のある種の「思い」の中でこうした状態像はつくられ、悪循環をなし行動障害として現れます。本人の思いを感じることでつくられた支援者の「思い」は混ぜ込まれ、その時同時に相手に映し返されます。たったそれだけのことですが、その相互の「思い」の交錯は支援に大きな意味がある様に思います。「思い」が相互に響き合うことで素朴なコミュニケーションが成り立ちます。

エピソード記述とはエピソードの記述者、描き手の思いを通して描き手自身の意識、その意識が対象化する相手の意識、さらにその読み手となる人の意識、そこから三者が相互に自分を映し合う鏡の様なものではないのでしょうか。人は鏡に映った自分を見て初めて自分をイメージすることが出来ます。人の「思い」はエピソードを介して記述されることで思いが表れ、それが確かな対象となり共有されます。

エピソード記述にはことばを通した目には見えにくい「思い」、胸の響きが込められ、見えないものを微かに垣間見ることが出来ます。エピソード記述を描くこと、読むことで描き手や描く対象となった人、読む人の「思い」が共

有され、響き合い、その輪郭が次第に浮かび上がります。

サポート研のエピソード記述研究会では今回もエピソード記述の提唱者である鯨岡峻先生から直にお話をいただくことが出来ます。エピソード記述をどう描き、どう読み、本人や描き手自身、読み手自身の思いに気づくまたとない機会ではないかと思えます。

鯨岡先生からさらに関係発達論やそれに沿った現在の福祉の状況についての貴重なお話がいただけることと思えます。是非ご参加ください。

午前 講義、鯨岡 峻（中京大学）

午後 エピソード記述の実践報告、鯨岡 峻

分科会 4 行動障害

◆ 意思決定が難しいと思われる人の支援を考える

激しい自傷や他害、こだわりといった、いわゆる行動障害のある人たちは、その行動面の激しさが前面に出るため、「その行動をやめさせるには…」といった行動抑制（またはコントロール）や、「ダメなものはダメと教え込まなくては…」といった威圧的対応を受け続けることが少なくありません。

しかし、立場を換えて、もし私たちが周囲の人から行動抑制や叱責を受け続けていたら、あるいは自分の思いを理解してもらえず不本意なことを強要され続けられたら、私たちのころはどのような状態になるでしょうか。おそらく、気持ちが萎縮し、自分の心身を守るために抑うつ的になったり、あるいは理不尽さに怒りを爆発させるのではないのでしょうか。まして、自分の思いをうまく言葉にできない自閉性障害のある人や知的障害のある人は…。

分科会4はこれまで11年間、行動障害のある人に対する理解と必要な支援とは何かを、本人の側に立って研究を重ねてきました。そこで得た確信の1つは、「どんなに障害が重くても、どんなに行動が激しい人でも、本人には意思がある」ということです。

激しい自傷や他害、こだわりに対して現実的に対応する支援者は身も心も辛く痛みます。しかし、その中で支援の困難さを安易に本人の障害の重さに帰するのでなく、「本人が一番混乱し、辛い状況に置かれている」「本人は『私のことを分かってほしい』と切実に思っている」と踏みとどまり、根気強くその人のところに触れようとし続ける事で、少しずつ本人の気持ちが見えてきます。そして、意思や感情を周りの人に分かりやすい仕方で伝えるようになると、自傷、他害、こだわりが軽減し、確実に行動が落ち着いてきます。行動障害のある人を支援されている方々の中には、悩み、困難に直面しつつも、本人とのかかわりを通して、そのような手応えや変化を実感している支援者もたくさんおられるはずです。

今回のセミナーでは、『意思決定と支援』という全体会のテーマを受けて、このような支援過程に対する理解を1つの事例を通して深めると共に、参加者の皆さんにも経験を持ち寄っていただき「行動障害：意思決定が難しいと思われる人の支援」を一緒に考えたいと思います（昨年参加された方はもちろん、はじめての方、経験の浅い方々も大歓迎です！）。

共に考える研究会にするために、参加者の方々には昨年同様、事前のアンケート『現場からの発信：行動障害のある人の支援に取り組んで』を通して検討資料を作成し、分科会4の話し合いに活用したいと思います。

多くの方々のご参加をお待ちしています。

9:30 趣旨説明 荒木 大輔（デイセンター山びこ・東京）

9:40 事例報告『ごちゃごちゃうるさい！ 自分のことは自分で決めたい！ でも気を遣っていいにくい』
（事例提供ワークセンター豊新・大阪）

11:10 質疑応答と課題整理

12:00 休憩

13:00 シンポジウム『行動障害：意思決定が難しいと思われる人の支援を考える』

※事例発表者をはじめ、現在行動障害のある人の支援を実践されている方やアンケートに答えていただいた方(事務局から後日ご依頼させていただく場合があります)に、ご自身の経験や意見を述べていただき、その後フロアを交えて活発な意見交換をしたいと思います。(途中休憩あり)

(司会) 辻田 剛己 (さつき学園・静岡)

(助言者) 赤塚 光子 (サポート研会長、元・立教大学教授)

岩崎 隆彦 (姫島こども園園長・大阪)

15:30 終了

分科会5 政策論

◆ 総合福祉法と意思決定支援

2011年8月に障害者総合福祉法の骨格提言が総合福祉部会で取りまとめられ、2013年8月の施行に向けての法案作りが開始されています。私たちは昨年「自己決定と支援について考える」というテーマで連続した学習会を企画し、本年2月の研究セミナーでは「意思決定と支援のあり方についての提言」を採択しました。このような中で7月に「障害者基本法」が改正され、衆議院議員修正案によって「意思決定の支援」が加えられましたが、これは決定的に重要な意義をもっています。「骨格提言」においても「意思決定支援」への配慮がみられますが、しかし、具体的に意思決定支援を行う制度や具体的な取り組みについての論議は十分とはいえません。今回は、この一年間の進展を確認しつつ、今後私たちが取り組むべき課題を明らかにするために分科会5を設定しました。

午前は総合福祉部会構成員をされている小沢温氏ならびに清水明彦氏に、この間の総合福祉部会での論議と特に意思決定支援についてのそれぞれの見解を話していただきます。

午後は各現場から意思決定を支える支援体制についての問題提起を行ってもらいながら参加者全体での論議の場としたいと思います。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

【午前の部】 司会 明石 洋子 (あおぞら共生会・神奈川)

9:30 課題説明 柴田 洋弥 (サポート研顧問・東京)

10:00 講演Ⅰ「総合福祉法と意思決定支援」

小澤 温 (筑波大学大学院教授・総合福祉部会構成員)

11:30 講演Ⅱ「客体から主体への転換としての意思決定支援」

清水 明彦 (西宮市社会福祉協議会・総合福祉部会構成員・兵庫)

【午後の部】 司会 藤内 昌信 (だれもがともに小平ネットワーク・東京)

13:00 討論 「みんなで考えよう！意思決定を支える支援体制とは」

指定発言者 (予定)

明石 洋子 (あおぞら共生会・神奈川)

上原 明子 (世田谷区手をつなぐ親の会・東京)

田口 道治 (デイセンターあゆみの家・岐阜)

戸田 健一 (千歳市障害者総合福祉センター・北海道)

中島 博幸 (やまびこ工房・神奈川)

中西 昌哉 (ベテスタの家・京都)

山西 孝 (白樺園・山梨)

15:30 終了

第13回 全国障害者生活支援研究セミナー

セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2012年2月4日(土)～2月5日(日)
- ★ セミナー会場 2月4日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B
2月5日(日) 新宿NSビル NS会議室
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円
一般 12,000円(学生6,000円)
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円
一般 7,000円(学生3,500円)
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム③
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。
2012年2月3日(金)～2月4日(土)を含む2泊

ご宿泊施設

新宿ワシントンホテル本館 (新宿駅西口駅徒歩約8分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336 東京都新宿区西新宿3-2-9		TEL 03-3343-3111 FAX 03-3342-2575	
	シングル	@13,000円	ツイン	@9,000円
京王プレッソイン新宿 (新宿駅西口駅徒歩約9分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約5分 *朝食は簡易朝食(パン・コーヒー・ジュース)になります</small>	〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-4-5		TEL 03-3348-0202 FAX 03-3348-0203	
	シングル	@9,500円	ツイン	設定なし

ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

★ お申し込み方法

セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて1月6日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を1月中旬頃送付させていただきます。

★ お問い合わせ先

〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

KEIO 旅 京王観光 京王観光株調布支店

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当:大野

営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)

第 13 回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2012年1月6日（金）必着

★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 -					
		TEL	()	FAX	()	
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな		男・女	正会員 情報会員 一般 学生	2月4日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
				2月5日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな		男・女	正会員 情報会員 一般 学生	2月4日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
				2月5日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな		男・女	正会員 情報会員 一般 学生	2月4日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
				2月5日（2日目）のみ		
				両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル	部屋タイプ
有 無	2/3(金) (前泊)	2/4(土) (当日泊)	第一希望： 第二希望：	1・シングル 2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先 **KEIO 旅 京王観光** 京王観光(株)調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：大野

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）